

松本学を探求し、松本の未来を創造する 松本市基幹博物館整備事業



エントランス廻り吹抜空間 イメージ

整備予定スケジュール

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
基幹博物館整備事業	実施設計	新築工事		開館準備期間	OPEN 予定
		展示製作			

建物の概要

建物名称：松本市立博物館
 建設地：長野県松本市大手三丁目 64 番 1 他 24 筆
 敷地面積：4,115 m²
 地域地区：商業地域 建ぺい率 90% 容積率 400%
 建築面積：2,973 m²
 延床面積：7,775 m²
 規模：地上 3 階建て
 構造：鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）、耐火建築物

設計

設計：久米・伊藤・乃村共同企業体

各階主要室面積

階	主要室名	面積
3F	常設展示室	902 m ²
	一般収蔵庫 2	318 m ²
2F	特別展示室	616 m ²
	図書・情報室	102 m ²
	一般収蔵庫 1	730 m ²
1F	子ども向け展示室	101 m ²
	講堂	159 m ²
	交流学習室	111 m ²
	ミュージアムショップ	69 m ²

お問い合わせ先

松本市立博物館
 〒390-0873 長野県松本市丸の内 4 番 1 号

TEL：0263-32-0133

FAX：0263-32-8974

Eメール：mcmuse@city.matsumoto.lg.jp

HP：http://matsu-haku.com/matsuhaku/

※このリーフレットは、2019年10月現在のものです。今後変更となる可能性があります。



新博物館のコンセプト

松本城三の丸に相応しい風格と松本らしさを表現する博物館

- かつて城内の武家屋敷であった敷地に建つことを鑑み、地域の歴史を踏まえた建築デザインとしました。
- 建物は、まちづくり協定を遵守して高さを抑えるとともに、周囲と調和するよう勾配屋根を2段にして、大名町通りの景観に配慮しました。
- 軒庇を土手小路に沿って連続させることにより、東西に長い敷地を親しみやすい半屋外空間を備えた通りとして演出しました。また、水平を強調する軒庇は、建物全体のまとまりも強調しています。

交流と活動の拠点となるまちとつながった博物館

- 軒下空間は「ギャラリー」としての機能を備え、現代の松本文化の紹介や観光情報を提供します。また、様々なイベントや団体と連携を行うなど、人々の交流の場として利用します。
- 1階フロアは、市民や観光客が立ち寄りやすい機能を集約するなど、まちとつながった開放的な空間としました。講堂や交流学習室などで行う様々な博物館活動を通じて、まちの賑わいを創出します。

豊かな歴史遺産を次世代へ確実に継承する、持続可能な博物館

- 市民の宝である貴重な資料を次世代に確実に引き継ぐため、高耐震の構造形式の採用や自家発電設備を設けるなど、災害等に対して十分な備えをもった造りとしました。
- 空調設備に、市の施設としては初めてとなる地中熱ヒートポンプシステムを採用し、節電・省エネによるCO2排出削減など、環境に配慮した方式としました。
- 資料保存や展示に万全な環境を整え、国宝や重要文化財などの展示に対応できる「公開承認施設」の条件を満たしています。

展示のコンセプト

体感により松本学を深める常設展示

- 多角的な解説により実物資料をじっくりと楽しむとともに、定期的に開催する実物に触れる体験を通して、自ら気づき考えながら松本学を深めます。
※松本学とは、松本市域で培われた〈人〉〈歴史・文化〉〈自然〉という視点から、地域社会の移り変わりや人の生き方を総合的に学び、松本の未来を創造する学のことです。
- ハード面、ソフト面ともに更新しやすさを重視したシステムにより、変化し続ける常設展示を実現します。

多彩な企画を実現する特別展示

- 指定文化財を展示するための国の基準を満たし、可動壁等を用いた自由度の高い展示空間により、国宝等を用いる大規模な特別展から市民協働による小規模な企画展まで、様々な展示を幅広く開催します。

まちとひとつをつなぐウィンドーギャラリー展示

- 通りから眺められる軒下のギャラリー空間では、多様な視点で集められた松本の宝を展示し、松本の今と市民の多彩な姿を通りに向けて発信します。
- 館外から気軽に情報を得られる、博物館の顔となる展示です。

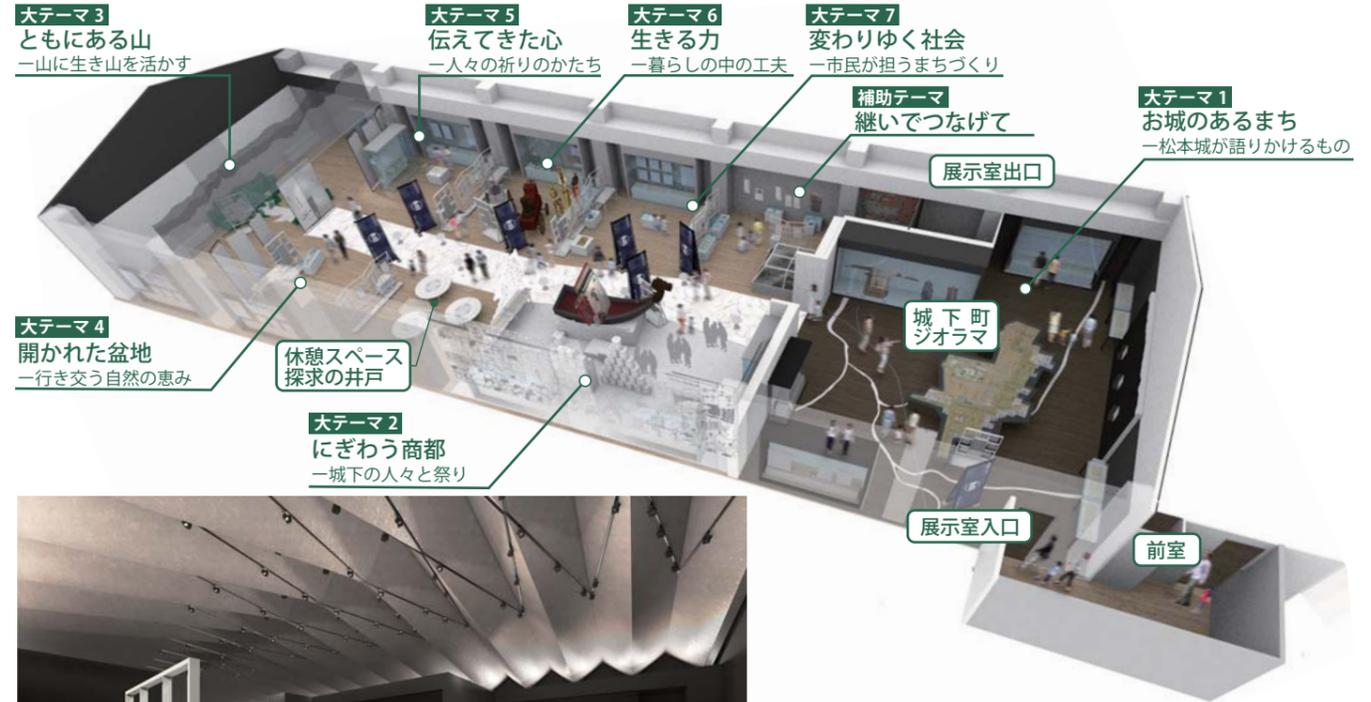
松本学の入口としての導入展示

- “松本ってどんなところ”を紹介する“博物館と展示の入口”として、来館者を常設展示へと導くとともに、松本まるごと博物館の情報を提供し、市内探訪のスタート地点としての機能も果たします。

発見の喜びと出会う子ども向け展示

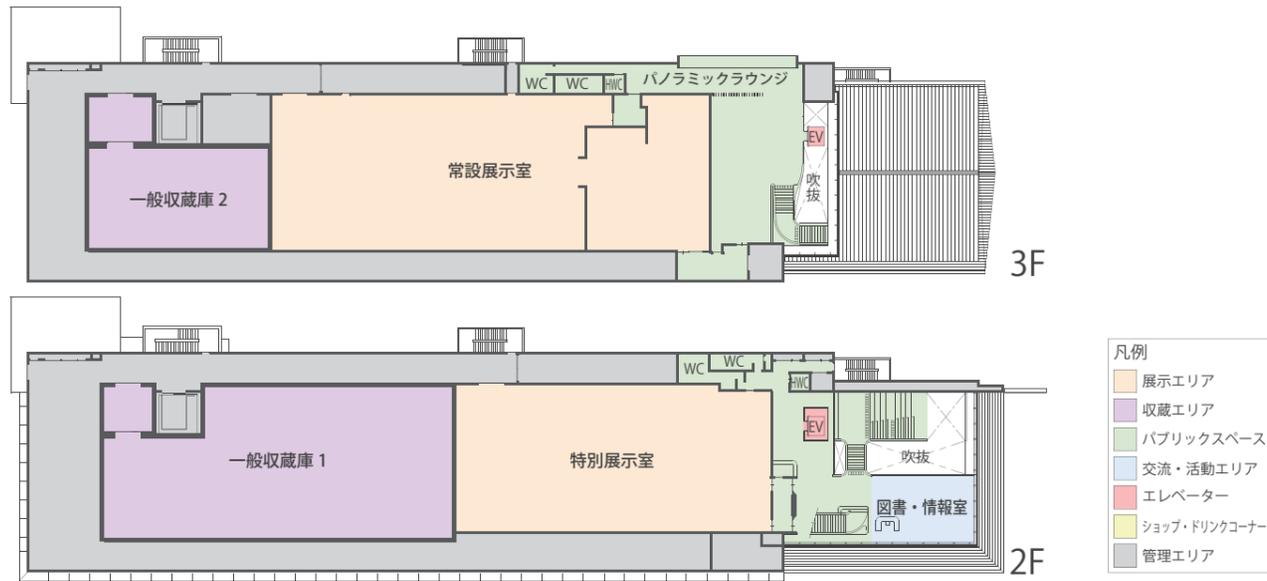
- 未就園児から小学生までを対象にし、松本らしさを取り入れた空間で、たくさんの発見の喜びと出会うことができます。
- ここでの体験が、成長過程で常設展示・特別展示への関心につながります。

主な施設の概要



ジオラマを中心としたテーマ展示「お城のあるまち」イメージ

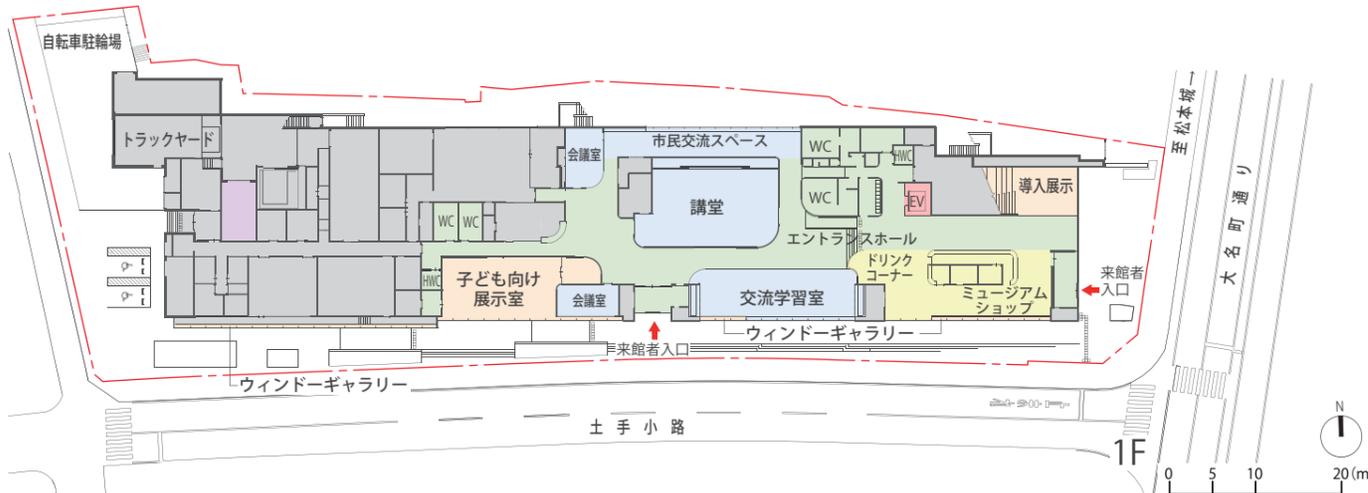
- 松本の歴史・文化・自然という多様な姿を総合的な視点で伝えるため、通史展示ではなく7つの大テーマと1つの補助テーマによるテーマ展示とし、体感ゾーンがつながる構成によりそれぞれのテーマの関係性も理解できる展示です。
- 資料を読み解く楽しさと体験による発見を通じて、「来館者自身の思考を促す」ことができる展示です。



図書・情報室 イメージ



講堂(左)と交流学習室 イメージ



ウィンドーギャラリー イメージ



導入展示 イメージ



子ども向け展示室 イメージ

- 博物館の活動や松本の行事・産業・人のほか、地域や学校での活動成果などバラエティ豊かな展示により、通りを行き交う多くの人を惹きつけます。
- 一般市民や団体も利用可能とし、イベント周知や観光に役立つ情報の提供の場にもなります。

- 映像装置やマップを配置して松本市域の概要と魅力を紹介し、来館者の関心を高めながら常設展示へと導きます。
- 松本まるごと博物館の拠点として、地域の魅力を伝え、市内探訪を促します。

- 部屋全体を「小さな松本」とし、体験を通して松本らしさと博物館の楽しさを感じることができる空間です。
- 子どもと保護者が一緒に体験し共感できる、子育て支援の場としても機能します。